

クラス	QA310	担当教員	吉原 智恵子
テーマ	集団，対人関係に関する諸問題		
著書・論文 研究課題等	<p>〈著書〉「現代社会を社会心理学で読む」ナカニシヤ出版（2009）永田良昭・飛田操（編）（第4章 認知的な矛盾の統合における他者との関係の意義 p. 49-64），「自己心理学 社会心理学へのアプローチ」金子書房（2008）下斗米淳（編）（第7章 社会的文脈における自己概念の変容と動機づけ p. 123-133）</p> <p>〈論文〉「友人関係の進展過程におけるパーソナリティの類似性認知および一致・不一致事象の変化について」日本福祉大学研究紀要 現代と文化（2014）他</p> <p>〈研究課題〉社会的文脈における認知の変容過程に関する研究，他</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：対人関係，集団，社会的行動，社会的認知			
<p>学習目標</p> <p>①社会的存在としてのヒトの行動や認知に関する理解を深める。</p> <p>②問題の設定から論文の執筆・発表までの一連の研究遂行過程を通して，心理学研究の知識とスキルを習得する。</p> <p>③ディスカッションやプレゼンテーションの技術を向上させる。</p>			
<p>学習内容と授業計画</p> <p>集団や対人関係にかかわる諸問題について，文献の講読や調査，実験等の実施を通して理解を深めます。また心理学の研究方法に関する知識とスキルを養います。3年次前期は社会心理学のテキストや論文を輪読し，基礎学習を行います。後期は各自の関心に基づいて先行研究を調べ，その内容の発表と全体討論を行います。基礎力を養うための小課題も，地道に継続してやっています。これらの学習を踏まえて卒業研究の計画を完成させるとともに，予備調査や第一研究のデータ収集を実施します。4年次前期は各自の進行に応じてさらに研究を進め，後期は結果の整理・考察のまとめ，卒業論文の執筆を中心に行う予定です。授業は報告・討論の形式で行いますので，各自プレゼンテーションやディスカッションのスキルを向上させることが求められます。</p>			
<p>これまでの卒業研究の主なキーワード</p> <p>母子関係，父子関係，友人関係，教師と生徒の関係，いじめ，孤独感，自尊感情，コミュニケーション，ソーシャル・サポート，SNS，ストレス・コーピング，障碍，育児，リーダーシップ，ジェンダー，対人距離，流行，自己開示，自己愛，同調行動，ステレオタイプ，攻撃行動，感情労働，等（過去の卒業研究テーマリストを閲覧したい人は申し出てください。）。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>卒業研究は質問紙調査法，実験法，面接法，観察法等によるデータ収集を原則としたいと思います。そのため「心理学統計法」，「心理データ処理演習」，「質的データの解析」，「多変量解析」を履修していることを望みます。また将来を見据えながら主体的，能動的にゼミ活動に取り組み，コミュニケーション力を磨く心構えを持って欲しいと思います。そしてダメ出しにもめげない「打たれ強さ」を期待します。</p> <p>4年生の終わりには，「こういう卒論を書きました！」と胸を張れるような取り組みをしていただきたいと思います。卒論は，頑張った分，すべて自分の血（知！）となり肉となるものです。大学での学習の集大成ですから，納得のいくものができるといいですね。あるいは納得がいかないから大学院で継続して研究する，ということもあるかもしれません。</p>			